

次増加して、いささか担当しきれない現況である。

又、毎週金曜日は、夕刻から9時、10時まで、**Case Conference**、(**New Case**、**Joint Conference**、**Final Conference**)がつづいている。

以下、この1年間の研究過程の概要を述べる。

1. 所謂“自閉症”児の治療方法に関する研究——1969年よりの継続で、自閉症の治療がすすむにつれて、成果も上がり、状態像が変化してくるので、当初の集会的個人遊戯療法 (**collective individual play therapy**) の外に、集団療法や個人療法も積極的に拡大し検討している。

自閉症児の治療が臨床心理学的分野において、ことに意欲的に治療が試みられ、最近では、各所で成果を上げているが、ここのグループ(主として大学院学生)の治療は、他に決してひけをとらない秀れたレベルに近づきつつあると考えている。

2. 自閉症児の治療過程の分析——今回の紀要に論文として掲載したが、昨年の研究論文は8事例についての記述の方法で、主として集会的個人遊戯療法の検討を行なったが、今回は、そのうちの、それぞれ可成り自閉症の型を代表するような3例について、VTRの撮影してきた資料を手がかりに、治療の各時期にわけて、再生し、分析カテゴリーにもとづいて、8名(主として、大学院学生)のグループで分析を丹念に実施した。詳細は、今回の紀要のなかに掲載されている。

3. 大学生の適応異常に関する研究——過去10年近い間、いろいろな角度から検討してきたものであるが、昨年にひきつづき、広島大学、京都大学、九州大学との共同研究で、留年、**Screening Test**による早期発見方法、などを継続している。

一方、文部省の厚生補導特別企画研究として、本学学生相談室専任の土川隆史助手とともに、大学入学直前の高校3年、又は、浪人時代から、本学に入学した後の適応状態について、追跡研究をはじめている。

1971年1月に、第1回の資料(質問紙調査)を得た約500名のうち、4月に名古屋大学へ入学したものは、約140名で、これは、愛知県、三重県、岐阜県出身者が大部分である。一方、これに対比する者として、全国各地から入学したもののうち、1名しか合格しなかった高校出身者約120名を選出し、この両方を、質問紙、面接などによって継続して追跡することにしている。

4. 発作的意識障害を訴え、反社会的事件を惹起した1青年の精神病理学的考察——昨年の本欄で一寸触れたが、1970年8月に某近県で発生した某警察官傷害事件の19才の少年の事例である。

今月までにはほぼ1年間、某病院に入院、精神鑑定的意図の外に、治療的社会復帰を目的として追跡してきた。いずれ詳細は公表したいと思っているが、最近までに、可成りの部分精神病理学的立場からの資料を得ることが出来た。その概要に触れると、幼少児より、SF小説をこのんでよむ一方、空想的一人あそびを特にこのみ、中学校に入学したところから、顕著な**Day Dream**の体質がましてきている。そして、中学2年ごろから**Day Dream**から、意識の自己集中によって、自己催眠状態に入ることを体験し、次第に、その傾向に入ることの経験を増したようである。今回の警察官傷害事件も、この自己催眠状態のもとで発生したものともとめられる。

このようなケースは、極めて稀な事例と思われるが、今後なお社会復帰への機会を得させるように、治療的な関係を継続する予定である。(1971年11月22日)

一年間の研究経過報告と今後の課題 植 村 勝 彦

1. 昨年本欄に報告した「時間的展望」研究の継続として、そのひとつのまとめを「青年の時間的展望と職業に対する態度」と題して「青少年問題研究」(大阪府青少年問題研究会)に投稿した(印刷中)。この研究に関しては、これまでの内外の成果の論評も昨年来の宿題であったが、文献の収集と分類整理の段階に留まり、レビューするには至らなかった。今後の課題として継続を期したい。

2. 昨年来の共同研究である「過疎地域」問題は今年度も継続して行なわれ、次の如き成果及び研究を継続中である。

イ 昨年調査に出向いた島根県頓原町、愛知県富山村、長野県上村、山形県大蔵村の4町村における面接調査結果は夫々テープを翻文し、名古屋大学教育学部教育心理学科研究資料としてNo.1からNo.4まで公刊した。また、今年度出向いた熊本県水上村、長野県上村(2度目)の面接結果についても、今年度中に研究資料として公刊するべく目下翻文整理段階にある。

ロ 昨年出向いた上記4地域において、同時に行なった中学生に対する質問紙調査の結果については、1971年度日本教育心理学会総会において「いわゆる過疎地域の問題」と題して、続有恒、永田忠夫と共に発表し、私の

分担部分については本紀要に報告している。ただ、青年の流出、成人の留村に関する価値意識の追求には未だ不十分な点が多々みられるので、これまでの結果を踏えて質問内容を再構成し、地域及び対象を拡げて改めて調査を実施するべく準備検討中である。

ハ 一方、本年度は新たに科学研究費（総合研究(A)研究代表者続有恒）の補助を得て「過疎形態と家族関係に関する比較研究」なる題目のもとに、北海道大学、広島大学、熊本大学各教育学部、及び山形県教育研究所との共同研究として、いわゆる過疎地域から都会へ流出してきた人々を対象として面接調査しこれまでの在村者に対する面接結果と比較検討を試みる研究に着手した。われわれは長野県上村及び岐阜県坂内村より名古屋市及び愛知県下に出てきている人々に対する面接を受持ち、日下調査実施中である。

ニ 本年度は昨年同様、資料収集作業及び翻文作業に集中し、得られた結果を分析検討するには至らず、今後の継続課題として残された。私の視点は昨年本欄で述べたものと基本的には変わっていないのでここでは省略する。

3. 上記過疎問題を含めて、近年の急激な都市化現象に伴う地域社会の変貌には目を見張るものがある。それに呼応して、1965年、いわゆる Boston Conference

'65 で Community Psychology が提唱されて以来、Community Mental Health を中心とする書籍が陸續と刊行され、我国に於ても1969年の日本心理学会、及び今年度の日本応用心理学会・関西心理学会合同大会のシンポジウムで取上げられるに至っている。従来 of 心理学に於て、環境条件としての地域社会の重要性は唱えられてはいたものの、実際の研究成果として、地域社会を正面から追求した例は極めて乏しかった。社会変動の著しく、かつ流動的な状況下の今日に於ては、地域社会集団の研究は一つの独立した研究領域として心理学の中で位置を与えられるべきではないかと考える。ただ今日、Community Psychology の中心課題は臨床心理学の一分野として Mental Health にあるが、地域社会の問題をこうした限定的矮小化してとらえるのではなく、広く人格形成、社会化過程、リーダーシップ、態度変容、意志決定、社会変革、等々の問題として、積極的に中心に据えた研究が着手されるべきであろう。

こうした考案に立って、私は地域社会心理学の樹立を意図して、これまでの成果を再整理するべく検討を進めている。現在のところ目標も接近方法も極めて漠としており、未だ方法論的検討の段階には至っていないが、道は開けるものと確信し、今後の研究の中心課題として追求したいと考えている。 (1971年11月23日)

この1年の歩み 村上英治

1. 私にとって臨床心理学とは何か。永遠に自らに問いつづけらるべき自己課題をになって、私は、今年また研究者としてのこの1年の歩みをふりかえるとき、内心忸怩たるものなしとし得ない。

日本臨床心理学会が、この1年、九州大会、小金井総会と、依然CPのあるべきすがたを模索して、この11月第7回大会のシンポジウムをしようとするに到るまで、私自身、理事の一人としても、会員の一人としても、その志向する方向を正しく見定めてきたか否かを、何よりも自省しておきたい。「クライアントの権利を守る委員会」を発足せしめる準備委員会の一員として、私自身に課せられた具体的課題は、きわめて重要な意味を持つ。「いったい誰に対して、どのような権利を守ろうとするのか」「それらが規定されたとして、はたしてCPはクライアントの権利を守りうるのか、守りきれぬのか」臨床心理学における研究とは、この種の中核の問題から決して眼をそらすことなく、それらの批判にきびしくさらされてこそ、初めてその位置づけを保ちうるものである

との観点に立つとき、私は、自らの研究の進展の乏しき、力の足りなさを、改めて自己批判せざるを得ないのである。

2. ロールシャッハ法への現象学的接近をめざす、私たち現象学研究グループは、今年度特に、精神分裂病者の症状論をめぐる討議を深め、そうした視点からの検討をすすめてきた。しかし現在とりあげるにはまだ十分の成果を得ていないし、また何よりも分裂病者がおかれている状況をどのようにとらえるかの認識における欠落は認めざるを得ない。今後の討議の展開に委ねる所以である。

社会に向って開かれていく志向性をになって精神病者を考えていくとき、彼らの社会復帰こそが、そこでの中核の課題としてとりあげられねばならない。私自身の医療臨床の場としての、八事病院、刈谷病院における実践的研究は、その意味できわめて明確に、社会復帰病棟へとその関心を向けることになる。46年5月、東海心理学会第20回大会において、共同研究者、中京大学武田徹に